

優良種苗確保事業

(環境部森林保全課執行委任)

谷 秀司

円滑かつ適正な森林造成を推進するために、精英樹系統苗木等の特性を解明し、優良な種苗の供給を確保するために次の事業を実施した。

1. 採種園・採穂園改良事業

育種母樹林の改良のため、不良木等の伐倒・搬出(4.47ha)、ヒノキ採穂園(三重育46-12)の改良及び採種園の補植(1.0ha)、断幹等樹形誘導(7.15ha)をおこなった。

2. カメムシ等防除対策事業

本年度採種するヒノキ母樹にカメムシ防除用の袋掛けをおこなった。(2.9ha)

なお、採種後の発芽試験において、袋掛けしたものとそれ以外のものとの比較をおこなった結果は次のとおりとなった。

区 分	重量(100粒あたり)	発 芽 率	備 考
袋掛け有り	0.1532g	34.8%	
袋がけなし	0.1452g	3.3%	

3. 品種改良事業(次代検定林調査)

選抜された精英樹の遺伝的特性を検定するため、次の2カ所の次代検定林で調査を実施した。

西三ヒノキ14号

所在地：飯南郡飯南町向粥見

林 齢：20年

面 積：1.70ha

系統クローン数：実生、18。さし木、12

西三ヒノキ2号

所在地：一志郡美杉村八知

林 齢：30年

面 積：1.50ha

系統クローン数：実生、42。さし木、9。

4. 採種源整備運営事業

育種母樹林等整備事業

育種母樹林17.68haを対象に、下刈、消毒、施肥、整枝剪定等を行うとともに、苗木の養成、ジベレリン処理を行った。

種子採取事業

採取、精選した種子を次のとおり、三重県林業種苗協同組合連合会に売り払った。

樹種	売り払い数量	備考
スギ	15 kg	発芽率 20.94%
ヒノキ	80 kg	発芽率 9.26%
合計	95 kg	

5. その他

マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツの育成

マツノザイセンチュウに対し抵抗性があるクロマツの育成を目的として昭和62年に設定された採種園の改善を図るため、次の調査を実施した。

ア、抵抗性苗木の育成実証試験

抵抗性クロマツ採種園から生産される種子から養成した苗木の抵抗性を見るため、マツノザイセンチュウ接種試験を実施した。試験は、3年生苗木を使っておこなったが、ポット苗で行ったため、水管理が不十分であった。

イ、抵抗性クロマツ着花量調査

抵抗性マツ採種園から効率よく種子生産を行うため、各クローンの着花状況の調査を実施した。着花量は、採種園(0.5ha)にある16クローン、107本を対象に、雌花については、その着花量の実数を、雄花については、着生量を指数{1:(着生枝率が極めて少ないか全くみられない)から5:(着生の範囲が上層まで及び、着生枝率が極めて多い)までの5段階で評価}を1本ずつ調査し、それぞれのクローンの平均で出した。(図1, 2)

スギの雄花着生量調査

三重大学が行っているスギの花粉飛散予想のための資料とするため、構内にあるスギ採種園(三重育46-14)の精英樹23クローン(69本)を対象に雄花の着生状況調査を行った。着生量は調査木ごとに、それぞれ4方向の着生状況を指数{0:(ほとんど着花していないか、全くない)から3:(樹冠の2/3以上に着花している)までの4段階で評価}で表し、その平均を調査木の着生量とし、全調査木の平均をその年の着生量とした。(図3)

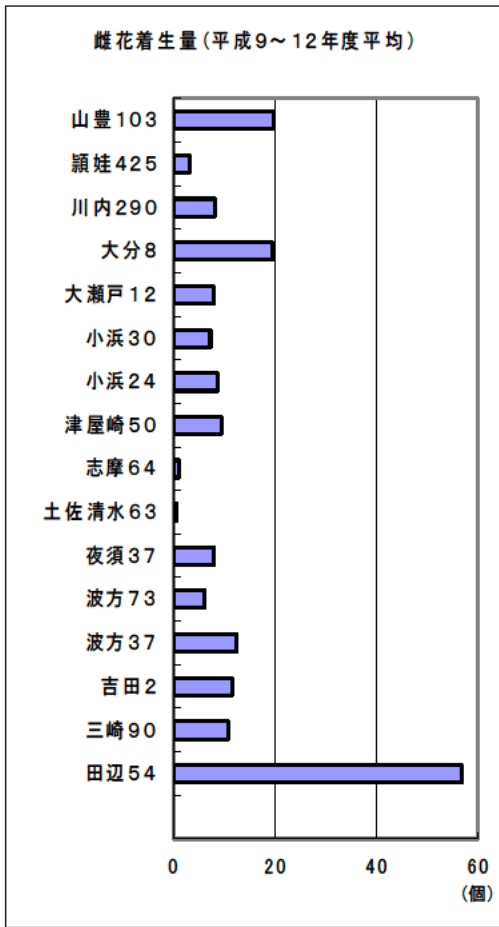


図-1 抵抗性クロマツ雌花着生量
(平成9～12年度平均)

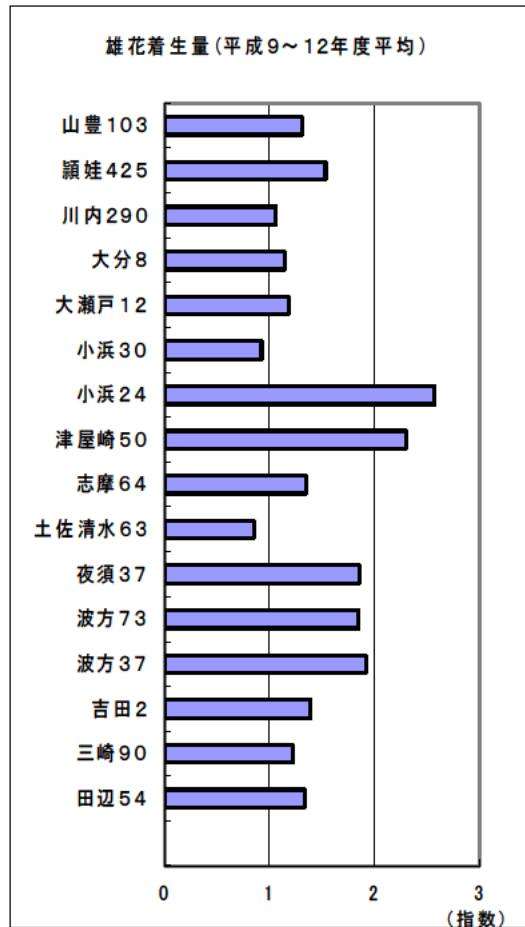


図-2 抵抗性クロマツ雄花着生量
(平成9～12年度平均)

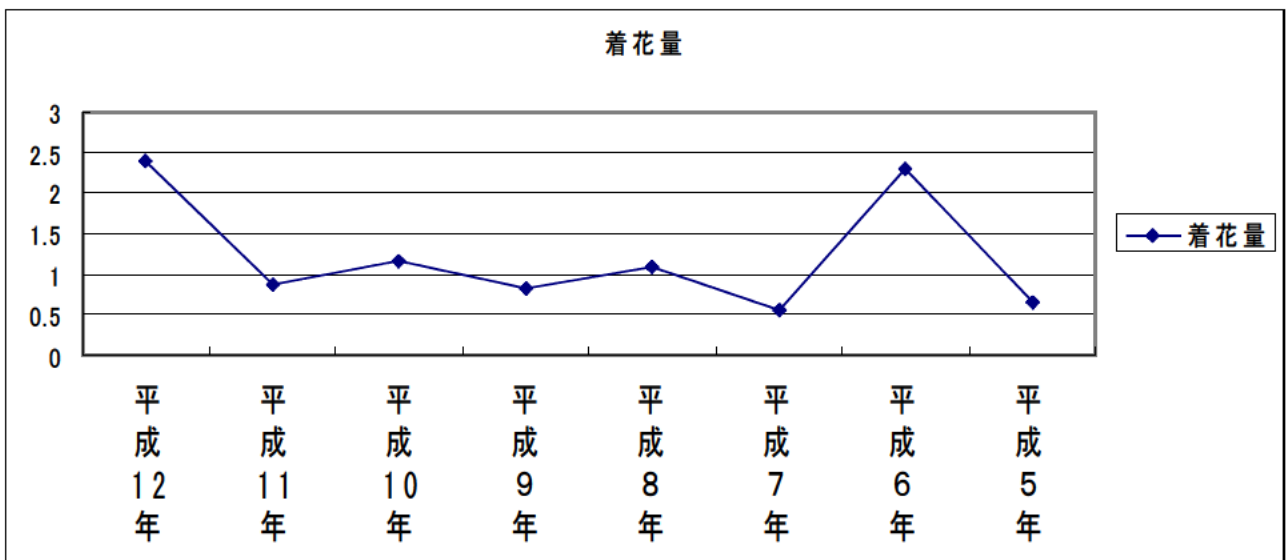


図-3 スギ雄花着生量